

ベラルーシ公開情報取りまとめ
(5月18日～5月24日)

2019年5月27日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・ロシア両国首相会談(5/24)
- ベラルーシ・中国産業特区「巨石」とセルビア自由区域「PILOT」、相互理解に関する覚書を締結(5/23)
- ベラルーシ・ミンスクにて天皇陛下即位祝賀レセプション開催(5/21)

大統領動静

●ミンスク州・市内道路整備状況の視察(5/24)

ヨーロッパ競技大会に向け、ミンスク環状道路を中心に、路面状況・道沿環境整備状況・同競技大会で使用される車両状況の確認を行った。「各国来賓に、ベラルーシは自然を大切にしている国と認識してもらえるようにすべき」と植林等の追加作業を指示。

(5/24 ベラパン通信)

内政・外交

【外交】

●ベラルーシ・ロシア両国首相会談(5/24)

同首相会談では、ベラルーシ・ロシア統合問題に関する協議が行われた。メドージェフ露首相の報道官は、両国首相が両国経済大臣に、6月3週目に開催予定の次回首相会談までに、妥協が必要となる事項・依然合意に至っていない事項の一覧表作成を指示した、と公表。両国首相テタテ会談の後、ベラルーシからはリャシェンコ副首相、ペトリシェンコ副首相、クルトイ経済大臣、エルモロヴィチ財務大臣、ロシアからはコザク副首相、オルシュキン経済発展大臣が加わり拡大会合が行われた。同会合では、石油品質低下に起因する被害額の算定等について議論された。

なお、両国首相会議における各々の発言要旨は以下の通り：

ルマス・ベラルーシ首相

統合問題に関し両国間の認識は70%合致している。本会談において、残りの30%について、どのような認識相違があるのか理解したい。

メドージェフ露首相

昨年末開催された連合国家閣僚会議において現実的問題が協議された。現在は作業部会が創設され、連合条約実現に向け追加の可能性について協議されている。ベラルーシは、ロシアの提案に対し再提案を提出した。同再提案につき協議をしたい。

(5/24 ベラパン通信)

●オレシュキン露経済発展大臣、首相会談、拡大会合に関し、コメント。

● 統合問題について

これまで、同大臣、クルトイ・ベラルーシ経済大臣を筆頭とした作業部会により秘密裏に作業が行われてきたが、両国首相会談を経て、さらに積極的に、そして他の省庁を巻き込んだ広範囲に作業を進めていく。

● 石油品質低下に伴う被害に関して

両国間に大きな認識の差異は存在しない。算定に関わる技術的な作業残るのみであり。同作業は一ヶ月で終わる見込み。

(5/24 ベラパン通信)

●ベラルーシ・ロシア、6月10日までに石油品質低下に伴う被害額算定策整備に合意予定(5/24)

リャシェンコ・ベラルーシ副首相とコザク露副首相の会談において、同問題につき協議がなされた。

(5/24 ベラパン通信)

●ベラルーシと中国、教育・研究分野における相互承認協定に署名(5/23)

カルペンコ・ベラルーシ教育大臣と田学軍・中国教育部副部長により、同協定の署名が行われた。同協

定の他、ベラルーシ国立大学と中国情報大学間の学
問交流プログラムに関する相互理解の覚書の署名も
行われた。

(5/24 ベラパン通信)

●ベラルーシ軍幹部団、レバノン・シリアに訪問。

(5/21-23)

国際連合レバノン暫定駐留軍幹部との会談を目的
とし、オレグ・ヴォイナフ防衛大臣補佐官(国際軍事
協力局長)を筆頭としたベラルーシ軍幹部団がレバノ
ン・シリアを訪問。同会談では、同駐留軍におけるベ
ラルーシ軍人の活動内容を協議。また、幹部団は、レ
バノン軍・シリア軍との会談も実施した。

(5/23 ベラパン通信)

●ベラルーシ・ミンスクにて天皇陛下即位祝賀レセプ ション開催(5/21)

徳永大使の発言:

・日本は、ベラルーシとの協力発展において新たな成
功を模索していく。陛下の即位は国家発展および他
国との関係発展における新たな時代を意味する。

ラフマーノフ委員長の発言:

・これまで日本は自国の発展において大きな飛躍を
遂げた。今後もすべての方面において大きな成功を
収めるであろう。

(5/22 ベルタ通信)

●ベラルーシ・アメリカ、麻薬対策関連国家機構の二 国間協力覚書に調印

ベラルーシ側は内務省、国家国境委員会、国家税
関委員会、アメリカ側は法務省麻薬取締局が調印。

(5/21 ベルタ通信)

●ゼレンスキー・ウクライナ大統領就任式、ベラルー シからはリャシェンコ副首相が参加

なお、ポロシェンコ前大統領就任式においては、ル
カシェンコ大統領が参加。

(5/20 ベルタ通信)

経済

【国内経済】

●4月の平均賃金、17ルーブル上昇の1,074ルー ブル

(5/24 ベラパン通信)

●4月の物価上昇率、0.04%

2019年1-4月の物価上昇率は2.7%。

(5/23 ベラパン通信)

●EPAM社、2019年輸出額約22億USDを見込む。

アンドレイ・シュバデロフ同社副社長がベラルーシ
最優秀輸出社コンクールに参加。以下、発言要旨。

・同社の輸出額は10年連続増加

・現時点での2019年輸出額は18億USD超

・Google、Facebook、AmazonをはじめとするITグロー
バル企業と協力体制にある。

・当社の資産は「人」。17の大学機関に独自研究施
設を開設し、将来の従業員候補として学生育成に力
を入れている。

(5/23 ベラパン通信)

●非常事態省国家原子力管理局、ベラルーシ原発 へ核燃料使用に関する業務許可を発行。

同許可は、核物質および核廃棄物の計算、収集・
加工・運搬・保管等の運営管理を目的とする。ベラル
ーシおよび同原発は5月末、IAEA審査を受ける予定。
同審査においてはベラルーシ国内の管理体制だけで
なく同原発内管理体制についても評価される。ベラル
ーシ原発への核燃料供給は今年中と見込まれてい
る。

(5/22 ベラパン通信)

●ベラルーシカリ、新鉱区開発へ

ソリゴルスク市ダラシンスキー鉱区にてカリ鉱山の
開発を行う。年間採掘量は8~9百万トン、推定鉱山
寿命は40~50年。

(5/22 ベラパン通信)

●2019年第一四半期のベラルーシ小売額、昨年同時期対比、5.9%増

2019年1月～4月のベラルーシ小売額は150億ベラルーシルーブルであり、昨年同時期対比で5.9%増加。国民一人あたりの小売額は13.2ルーブル/日。

(5/18 ベラパン通信)

●2019年第一四半期のベラルーシ工業生産額、昨年同時期対比、1.2%増

2019年1月～4月のベラルーシ工業生産額は371億ベラルーシルーブルであり、昨年同時期対比で1.2%増加。

(5/18 ベラパン通信)

【対外経済】

●ベラルーシ・中国産業特区「巨石」とセルビア自由区域「PILOT」、相互理解に関する覚書を締結(5/23)

同覚書は、両特区への相互投資誘致が目的。なお、「PILOT」は、1998年に作られたセルビアの経済特区。(登録社数:約100社、取扱高:約10億ユーロ)

(5/23 ベラパン通信)

●国際軍事展覧 MILEX 2019で調印した武器・軍事技術分野における貿易契約数、約30件(総額2億ドル)

5月15日～18日にかけてミンスク市内開催されたMILEX2019において、貿易契約に加え、約23件の軍事技術協力発展に関する合意を締結。本展示会には、35カ国から公式訪問団が参加。出展団体数は約170団体(うち、ベラルーシ:約40団体、ロシア:約40団体、カザフスタン:7団体、中国:3団体)

(5/19 ベルタ通信)

●国際軍事展覧会 MILEX2021、産業特区「巨石」にて開催される予定。

MILEX2019の閉会式で、国家軍需産業委員会イーゴリ・デミデンコ副委員長が表明。

(5/18 TACC 通信)